

ダリア不足感強く

生花店 例年の倍値水準 苦慮

夏の猛暑の影響で「秋の花」として人気の高いダリアの出回りが少なく、売場作りに苦慮する生花店が続出している。東京都内の生花店では、丈の短いものを使ったり、バラでにぎやかな感じを演出したりと、品不足を補うのに必死だ。婚礼にも需要が拡大中で影響が出ている。

生花チェーン大手の青山フラワーマーケットは、9月からダリアフェアを展開している。全国約60ある各店舗がそれぞれ独自の期間を設定しフェアを開催。10、11月が最もフェアが集中するが、今年は仕入れ困難が予想されることから、販売強化を指示したと

話す。首都圏でチェーン展開する小田急フロッリストは、丈の短いダリアの仕入れを強化。9月下旬に開催したフェアでは、「今年は丈の長さにこだわらぬ余裕がなく、40センチの短めのものが多かった」(同店を運営する小田急ランドフローラ)。

都内のホテルなどで婚礼装花を手がける日比谷花壇(東京都港区)は通常、「黒蝶」「熱唱」など品種指定するが「今年は赤や白といった色指定にとどめ、産地も分散して量を確保している」(広報室)と話す。

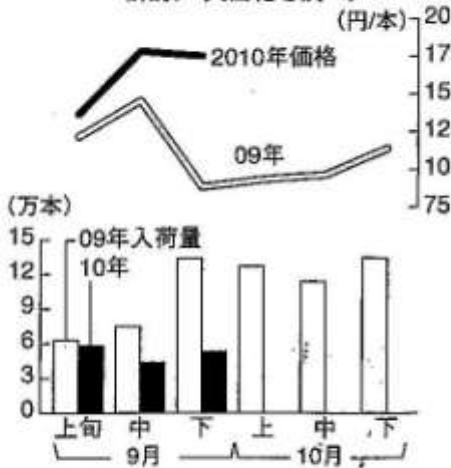
ダリアの出回りが少ないのは、この夏の猛暑の影響による生育不良が原因だ。主力の山形県JA山形おきたまでは、9月下旬の出荷は日量400㌔(20本入り)で前年の4割止まり。欠株が多い上、猛暑で丈が伸びないという。

秋田県のJA新あきたは、9月下旬の出荷が日量140㌔(20本入り)前後で「今秋は例年の半分から3分の1程度で終了しそうだ」。

相場は高騰しており、東京都中央卸売市場の大田花きでは9月下旬の1本当たり平均価格は175円と前年の2倍になった。今後も「入荷は大きく増えず、高値安定で推移する(同社)とみている」。

同店を運営するパーク・コーポレーション(東京都港区)の伯爵野司取締役は「通常仕入れも困難な状態で、ダリアは品不足。全店に、ダリアの代わりとしてバラの販売強化を指示した」と

ダリアの入荷量と平均価格
(東京・大田花き調べ)



レタス品薄1スケー4200円 東京市場

東京都中央卸売市場大田市場で4日、レタスが高騰した。長野産1㌔(16玉し級)中値が4200円と前市比945円高、4営業日続けて上げた。長野産の切り上がり

量は、1-1.5トと前週月曜より35%減、前年同期より53%も少なかった。気温高で長野産は市場によって今週半ばにも入荷がなくなる。卸売会社は「業務向けの量を集めて

いる。スーパー向けの売りはほぼ止まった」と話す。

茨城産の定植は夏の干ばつで遅れ、9月8日の両台風以降に一斉となった。そのため、今月連休

以降にそろって増量との懸念もあるが、卸売会社は「全体量は多くはない」とみて、例年を上回る価格が続くとみる。

この時期のレタスの産地リレーは例年、長野産が10月中旬まであり、後

滋賀の2JA 環境保全米 イオンPBに



のPB商品の1つとして販路(限)

環境保全米 滋賀の2JA